

ちびっ子鬼物語 「お嫁に行っちゃうエッちゃん」の巻

※登場人物

- ① **トシちゃん**(笑鬼小学校の四年生です。)
- ② **ユウちゃん**(トシちゃんの弟で笑鬼小学校の一年生です。)
- ③ **シンちゃん**(もつすぐ一歳になるトシちゃんユウちゃんの弟です。)
- ④ お父さん(おおらかな性格で魚釣りが大好きです。)
- ⑤ **お母さん**(明るくて話し好きです。)
- ⑥ **エッちゃん**(名前はエツコと言います。三人姉妹の末っ子で、とっても明るく可愛い女の子です。やがて商業高校に進み、卒業後、地元の町役場に勤務します。)
- ⑦ **ミツルさん**(町役場の先輩で、エッちゃんの婚約者です。)
- ⑧ **公民館の職員ユキコさん**(ベテランの職員です。公民館へ異動したてです。)

「今回の物語は、トシちゃんが生まれてから、近所に住む中学生のエッちゃんが毎日のようにトシちゃんの家(うち)に来て、あやしたり、一緒に遊んでいます。年の離れた仲の良い姉弟のように二人とも大きくなって行きます。・・・そしてトシちゃんが小学六年生の時にエッちゃんがお嫁に行ってしまうお話です。」

「トシちゃんは、この町で一九五五年二月三日の午前四時五十五分に一人目の男の子として誕生しました。近所に住む父方のお爺ちゃんお婆ちゃん、隣町に住む母方のお爺ちゃんお婆ちゃんがトシちゃんを見に来ます。・・・近所の人たちも次から次へとトシちゃんを見に来ます。・・・みんな口々に、目鼻立ちの良い子だね。まあ可愛い子ですね。顔立ちはお父さん似かな。口元はお母さん似ですね。といった具合です。・・・お七夜(命名式)、お宮参り、お食い初めなどお祝いの行事を済ませ、もう六ヶ月が経ちます。首も据わって来ました。寝返りももう出来そうです。・・・子ども

の成長は、本当に早いのです。」

▼ **エッちゃん** おばちゃん(トシちゃんのお母さん。)こんにちは。トシちゃん見せてください。
▼ **トシちゃんのお母さん**以降は、**お母さん**と書きます。(エッちゃんいらっしやい。家(うち)に上がってね。)

▼ **エッちゃん** お邪魔します。・・・トシちゃんこんにちは。トシちゃんって可愛いね！ずっと見ていても飽きない。・・・おばちゃん最近トシちゃんってニコニコ良く笑うね。

▼ **お母さん** エッちゃんの顔を見ると、きつと嬉しいのよ。・・・またニコニコ笑っている。

▼ **エッちゃん** おばちゃん。今日トシちゃんをおんぶしたいんだけど良いですか？

▼ **お母さん** トシちゃん生まれて六ヶ月が経ったから体重重くなったのよ。転ばないように気をつけてね。

▼ **エッちゃん** おばちゃん、分かりました。気をつけておんぶします。



「エツちゃんはおばちゃんの手を借りトシちゃんを初めておんぶします。そして近くにある公民館へ日陰を歩きながら向かうのでした。・エツちゃんは公民館の中へ入るとイスに座り、一休みしています。・そこに公民館の職員が立ち止まります。」

▼**公民館の職員ユキコさん**（以降は、**ユキコさん**と書きます。）　こんにちは。私は職員のユキコと言います。・まあ、なんて可愛い赤ちゃんなの。弟さん。・赤ちゃんおんぶして、あなた偉いわね。・あなたお名前はなんておっしゃるの？

▼**エツちゃん**　エツコと言います。・
「エツちゃんがユキコさんと話をしていると。・。」

▼**エツちゃん**　トシちゃんオシッコしちやっただみたい！これで帰ります。
▼**ユキコさん**　気をつけて帰ってください。また遊びに来てね。

「エツちゃんは、転ばないよう気をつけながらトシちゃんの家（うち）に急いで帰るのでした。」

▼**エツちゃん**　おばちゃん！おばちゃん！トシちゃんオシッコしちやっただみたい！私の背中冷たいよ。
▼**お母さん**　大変！エツちゃんおんぶトモほごいてトシちゃん降ろそうね。

「エツちゃんは、おんぶトモをほごいてお母さんにトシちゃんを渡すのでした。」

▼**お母さん**　エツちゃん背中冷たいよね。この部屋は暖かいから上着をぬいで、このタオルで背中拭いてね。そこにあるおばちゃんのシャツ少し大きいけど良かったら着替えて。
▼**エツちゃん**　ハ〜イ。ありがとう。・。

「お母さんは、トシちゃんのおシメをなれた手つきで取り替えるのでした。」

▼**エツちゃん**　オシメってそうやって取り替えるんですね。おばちゃん上手ですね。
▼**お母さん**　オシメの取り替えは、私の母親から教えてもらったのよ。
▼**エツちゃん**　トシちゃんオシメを取り替えてもらって気持ちいいですね。ほら笑ってる！
おばちゃんトシちゃんてホントに可愛いね。・おばちゃん明日も学校が終わってからトシちゃんおんぶしに来て良いですか？

▼**お母さん**　エツちゃんがトシちゃんと遊んでくれている間は、夕ご飯の仕度（準備のこと）ができるからホントに助かります。

▼**柱時計の音**　ポーン。・。ポーン。
▼**エツちゃん**　もう五時になっちゃった。・トシちゃんと遊んでいると時間があつという間に経っちゃう！おばちゃんこれで帰ります。また明日遊びに来るね。
▼**お母さん**　いつでも遠慮なく遊びに来てください。

「エツちゃんは、毎日トシちゃんに会いに来るのでした。天気の良い日はおんぶをして近くの公民館などをお散歩します。雨の日にはトシちゃんの家（うち）の中で遊んでくれます。・。昨日（きのう）は天気が良かったので公民館に行きました。一階にミニ展示コーナーがあつて、そこで折紙で作った独楽（こま）を回して遊びました。それから、ちびっ子鬼物語「ワカサギ釣りの巻」を最後まで読みました。・私もお父さんとお姉（ねえ）ちゃんとおきる野湖へ行つて、釣つて楽しく食べて美味しいワカサギ釣りに行きたいな〜と思つたのでした。・。・。」

「ここまで読んで頂きありがとうございます。前編はこれで終わりです。」

少し休憩しましょう。後編を楽しみにしててください。

▼エツちゃん おばちゃんこんにちは。トシちゃんと遊びに来ました。
▼お母さん エツちゃんいらっしやい。家(うち)に上がってね。

「一九五八年・・・トシちゃんは三歳になり、弟のユウちゃんが生まれました。エツちゃんはこの年の四月に商業高校に進みます。セーラー服に三つ編みの髪型がよくにあう女の子です。」

「一九六一年・・・トシちゃんは六歳になります。エツちゃんは商業高校を卒業します。そして地元の町役場に就職します。」

「一九六二年・・・トシちゃんは七歳になり、笑鬼(しょうき)小学校へ入学します。エツちゃんも来年は成人式を迎えます。」

「一九六七年・・・トシちゃんは十二歳小学六年生に、弟のユウちゃんも九歳小学三年生に、三男のシンちゃんも三歳になります。エツちゃんは就職して六年が経ち、二十四歳になります。」

「ある日、トシちゃんは、エツちゃんが見知らぬ男の人と仲良く話をしながら歩いているのを見かけます。・・・その時、トシちゃんは寂しさを覚えます。」

「トシちゃんは、その日の夕ご飯の時にお母さんから、エツちゃんが今年の秋に結婚することを聞きます。・・・数日後の夕ご飯の後、お父さんとお母さんが何やら話をしていきます。」

▼お父さん お母さん、最近トシちゃん元気がないように思っただけど。何かあったのかな？
▼お母さん お父さん、エツちゃんが結婚しちゃうから寂しいんだと思うわ。トシちゃん小さい頃からエツちゃんに可愛がってもらっていたし、年の離れた姉弟のようでしたものね。

▼お父さん お母さんの言うとおりトシちゃん寂しいんだろね。・・・しばらくは、私とお母さんで見守ってよう。時間が解決してくれるのを待つしかないだろうね。・・・

「九月最初の日曜日、エツちゃんが婚約者と二人でトシちゃんの家(うち)を訪れるのでした。」

▼玄関を開ける音 ガラガラガラ・・・

▼エツちゃん こんにちは。今日は皆さんに、私が結婚する人を紹介しようと思ひ伺いました。

▼お母さん お父さんトシちゃんユウちゃん、エツちゃんが来たわよ。

▼お父さん こんにちは。エツちゃんいらっしやい。こんにちは。こんにちは。・・・

▼エツちゃん 私結婚することになりました。同じ町役場で働くミツルさんです。

▼ミツルさん 皆さんはじめまして。ミツルです。よろしくお願ひします。

▼トシちゃん家族みんなから二人へお祝いの拍手(パチパチパチパチ・・・)

▼ミツルさん あなたがトシちゃんでしょう！エツちゃんから話を聞いています。仲の良い姉弟のように毎日遊んでいたこと。おんぶしてオシッコ漏らされちゃったこと・・・

この間も、男の子が授かったらトシちゃんと生き写しの子が良いつて言ってたよ。・・・

▼トシちゃん ミツルさんは、エツちゃんから僕のこと全部聞いちゃったんですね。・・・

「トシちゃんの寂しい気持ちは、ミツルさんの話を聞くうち、次第に二人の結婚を応援する気持ちに変わっていくのでした。」

▼トシちゃん ミツルさん、僕の大好きなエツコ姉ちゃんのことお願ひします。・・・また遊びに来てください。待っています。

▼お母さん トシちゃん笑顔で、ミツルさんに「エツコ姉ちゃんのことお願ひします。」ですって。お父さん聞きましたあ。人の気持ちを考えられるようになってきたんですね。・・・

▼お父さん 体と一緒に「心」も成長してきたんだね。・・・ねえお母さん。